

■オリンピック開催決定と水のまち東京の舟運活性化■

2013年9月、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催された第125次IOC（国際オリンピック委員会）総会において、東京が2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に選出された。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定に伴い、大会期間中には観客及び大会スタッフ等の補完的な輸送手段として、水上交通における円滑な移動の確保が求められているとともに、増加する訪日外国人観光客等へ適切に対処していくことが必要とされている。

屋形船（牛若丸）



東京の夜景を眺めながら、座敷や天ぷら等の「和のテイスト」を楽しめます

遊覧船（御座船 安宅丸）



江戸情緒あふれる外観と「日本の四季」に拘った装飾が見所の船内では、芝居小屋での宴舞劇と料理が堪能できます

水上バス（ヒミコ）



船上バーとして、船上から動く東京の夜景とアーティストによるエンターテインメントショーが楽しめます

大会の施設の多くが東京湾岸を中心とする水辺エリアに立地していることもあり、大会の開催は東京の河川、港湾の水辺空間と一体となって、東京の舟運を積極的にPRし、盛り上げていく良い契機でもある。

このため、大会に向けて増加が見込まれる訪日外国人や日本人観客に対応するにあたって想定される観光需要への対応、東京水辺空間及び舟運のPRや集客などの諸課題について関係者による意見交換、相互連携の場として、2014年2月に「水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会」を設置し、同年2月に第1回会合が開催されたところである。

今後も、本連絡会を活用して、新規航路の開設や増便等による観光需要増加への対応や、水辺空間及び舟運の情報発信等を促進していくこととしている。

私が担当しています

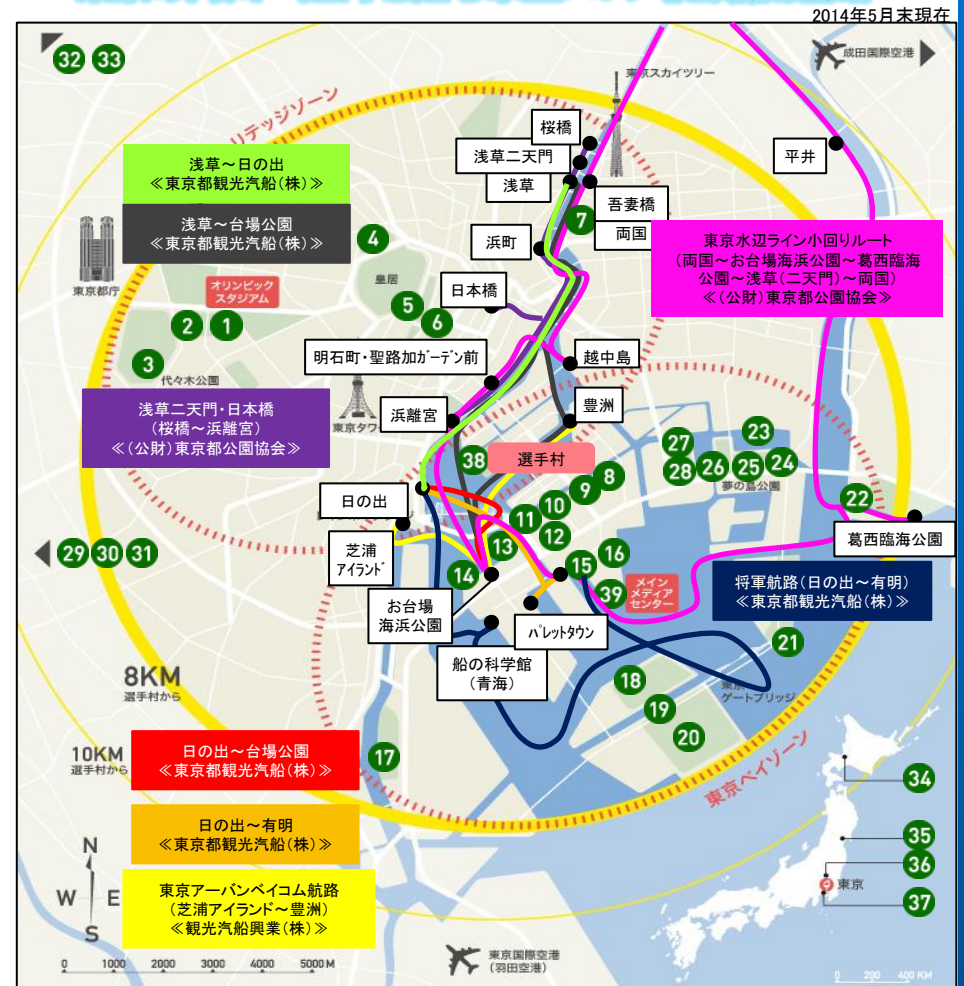


内航課
旅客航路活性化推進室
佐久間 正男

東京周辺における 水上交通事業者の 取組事例

写真提供：
（株）船清、東京都観光汽船（株）

東京の河川・港内を走る水上バス（定期航路図）



- | | | | |
|--------------|-------------------|--------------------|--------------|
| ①オリンピックスタジアム | ⑭潮風公園 | ⑳夢の島コース・プラザ・アリーナB | ㉒札幌ドーム |
| ②東京体育館 | ⑮東京ビッグサイト・ホールA | ㉑夢の島公園 | ㉓宮城スタジアム |
| ③国立代々木競技場 | ⑯東京ビッグサイト・ホールB | ㉒夢の島公園 | ㉔埼玉スタジアム2002 |
| ④日本武道館 | ⑰大井 Hockey 競技場 | ㉓夢の島公園 | ㉕横浜国際総合競技場 |
| ⑤皇居外苑 | ⑱海の森クロスカントリーコース | ㉔オリンピックアクアティックセンター | ㉖選手村 |
| ⑥東京国際フォーラム | ⑲海の森水上競技場 | ㉕ウオーターポロアリーナ | ㉗IBC/MPC |
| ⑦国技館 | ⑳海の森マウンテンバイクコース | ㉖武蔵野の森総合スポーツ施設 | |
| ⑧有明アリーナ | ㉑芝浦オリンピックマリーナ | ㉗東京スタジアム | |
| ⑨有明BMXコース | ㉒葛西臨海公園 | ㉘武蔵野の森公園 | |
| ⑩有明ペドドーム | ㉓夢の島コース・プラザ・アリーナA | ㉙陸上自衛隊朝霞訓練所 | |
| ⑪有明体育競技場 | | ㉚霞ヶ関カンツリークラブ | |
| ⑫有明テニスの森 | | | |
| ⑬お台場海浜公園 | | | |
- 東京2020オリンピック・パラリンピック
組織委員会HP資料より
海事局作成

水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会 (本省・関東運輸局共同事務局)

開催趣旨

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定に伴い、大会期間中に観客及び大会スタッフ等の補完的な輸送手段として水上交通分野での円滑な移動を確保するとともに、増加する訪日外国人観光客等への対応等について適確に対処する事が必要。
- 同時に、大会施設の多くが水辺エリアに立地していることもあり、これを契機に東京の河川、港湾の水辺空間と一体となって積極的にPRし、舟運を盛り上げていく良い機会と考えられる。
- このため、オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて増加が見込まれる訪日外国人や日本人観光客に対応するにあたって想定される新規航路開設や増便等による桟橋等の利用増、観光需要への対応、東京水辺空間及び舟運のPRや集客などの諸課題について、関係者による意見交換の場を設けることにより、情報の共有と相互の連携を図る。
- また、水上交通事業者については、業態の違いによる関心事項の差異もあることから、必要に応じてWGを設けた上で個別に意見交換を行うことも検討する。

連絡会構成メンバー

➤水上交通事業者等

東京都観光汽船(株)、(公財)東京都公園協会、東京ヴェンテアンクルーズ(株)、(株)シーライン東京、(株)クリスタル ヨット クラブ、屋形船東京都協同組合、東京湾屋形船組合、日本空港ビルデング(株)

➤旅行業者

(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル、(株)ジャパングレーライン

➤事業者団体

(一社)日本旅客船協会、関東旅客船協会、(一社)日本旅行業協会

➤行政機関

東京都(産業労働局観光部、建設局河川部、港湾局港湾経営部)、関東地方整備局(河川部、港湾空港部、東京港湾事務所)、関東運輸局(海事振興部、企画観光部)、海事局内航課



水素燃料電池船



東京オリンピック・パラリンピックでは、鉄道・バスなどの陸上公共交通の混雑が予想されており、補完的な交通手段として海上交通の効果的な活用を検討する必要があります。その中、水素燃料電池船は、二酸化炭素等を全く排出せず、またエンジンの騒音もない次世代のクリーン・グリーンな船舶として期待されています。

また、2014年6月に閣議決定された「日本再興戦略」の中において、水素社会の実現に向けたロードマップを着実に実行すべきとされていますが、ロードマップの中においても、燃料電池船の導入に向けた実証事業等の推進等が今後取り組むべき方向性として明記されています。

国土交通省としても、これらの動きを踏まえつつ、産学官で連携し、将来の燃料電池船の導入に向けた具体的な取り組み方策につき検討することとしています。

水素燃料電池船の優位性

- 既存の内燃機関に比べ高い環境特性
 - モーター駆動による低振動・低騒音といった快適性
- 旅客船や観光船において先行的な実用化も見込まれる**



屋形船



水上バス



水素燃料電池船

- ゼロエミッション
CO₂:排出ゼロ
NO_x:排出ゼロ
SO_x:排出ゼロ
- エンジン騒音なし